

# 2024年9月期 事業報告

【期間】 2023年10月1日～2024年9月30日

一般社団法人日本野球機構

2024年9月期は、期初のSMBC日本シリーズ2023で、阪神タイガースがオリックス・バファローズを対戦成績4勝3敗で破り38年ぶり2度目の日本一に輝きました。

2024年のプロ野球は、1934年に日本にプロ野球が誕生してから90年を迎えたシーズンとなりました。90年という長い歴史を共に築いてきたプロ野球とファンの皆さまが触れあうことでさらに絆を深めたいという思いからSNS等を通じて様々なファンコミュニケーションを展開しました。また、ファームには新しく2球団が参加し公式戦を開催いたしました。地域貢献や全国への野球振興普及の足掛かりとすべく、12球団と共にサポートを継続してまいります。

2024年9月期は、機構の果たすべき目的遂行のために新たに策定した中期経営計画を加味した事業計画に基づき下記を実施しました

### 【2024年9月期事業計画】

事業計画の重点項目は下記3点です

- ◇ プロ野球オペレーションの強化
- ◇ 野球普及振興の推進
- ◇ 上記2つを達成するための事業の充実化

## == 公益目的事業 ==

### 【野球普及振興事業】

野球普及振興では野球に興味・関心を持つ人を増やすための「入り口の普及振興」拡充に向けて仕組み化の検討やその検証のためのパイロット事業を開始しました。またこれまでも小中学生との接点となる教職員向けに「投げる・捕る・打つ」の基本動作や簡易化したゲームの進め方等を紹介する授業研究会を実施してまいりましたが、今期は「エデュすぽ！～教員のための体育授業研究会～」と名称を変え、5大ドームでの開催等、学校でのベースボール型授業の実施率向上を図るための活動にも取り組みました。

#### ◇ 未就学児向け施策

- 外あそびが減少傾向にある未就学児に対し、ボールあそびや簡易化した試合の面白さを知ってもらうことで、スポーツに親しみ幼児期に必要な運動をすることで健全な発育・発達に寄与することを目的としたイベントを全国各地で開催。終了後にもNPBと共同開催した他団体が独自に同様のイベントを実施するなど、全国各地で幼児が継続的に野球に触れることができる機会の維持・拡大に寄与
  - ✓ NPB ちびっ子やきゅう大会～ぶんぶんカップ～（機構主催）（計393名参加）
    - ・2023年10月29日 静岡県 草薙総合運動場 屋内運動場 97名参加
    - ・2023年11月18日 沖縄県 沖縄セルラーパーク那覇 106名参加
    - ・2023年11月19日 沖縄県 宜野湾市立野球場 107名参加
    - ・2024年1月20日 香川県 レクザムボールパーク丸亀 83名参加
  - ✓ 学生共同事業（都道府県高野連や大学野球連盟が主催し機構が協力）（計438名参加）
    - ・2023年10月15日 青森県高野連 BT ボールジュニアトーナメント 165名参加

- ・2023年11月26日 岩手県高野連 野球フェス in 宮古 60名参加
- ・2023年12月10日 宮崎県高野連 第4回キッズ宮崎ベースボールフェスタ 100名参加
- ・2024年2月10日 徳島県高野連 キッズやきゅうフェスタ in 徳島 70名参加
- ・2024年6月29日 京都大学 野球を楽しむ一日 43名参加

日本高野連、都道府県高野連のご理解により共同事業の実施・計画が進み、将来的には全国各地で定期的に幼児がベースボール型のあそびに触れることができる仕組み作りの基盤が整いつつある。

- ✓ キッズボールパーク（12球団主催事業）
  - ・2024年7月23日 マイナビオールスターゲーム2024 第1戦 150名参加

- キッズパートナーリーダー(KPL)の養成

幼児がボールあそびをする機会を全国各地に拡大するため、(園訪問など)幼児と共にあそぶことができる人材の育成、またその人材を育成・指導するための人材を養成する講習会を今年度から開始。今後さらに園訪問を通して幼児期の運動の重要性を広め、健全な発育・発達に寄与すると同時にボールあそびに触れる機会の提供拡大を推進する

- ✓ キッズパートナーリーダー(KPL)講習会の開催（2回計50名参加）
  - ・2024年3月31日 東京都 東京ガス大森グラウンド 25名参加
  - ・2024年8月25日 神奈川県 THEBAYS 25名参加

- ✓ 幼稚園・保育園訪問開始
  - ・2024年8月～9月 神奈川県秦野市内6園訪問 計208名の園児が参加

◇ 小学生向け施策

- NPB12球団ジュニアトーナメント KONAMI CUP 2023 の開催

小学生12球団ジュニアチームNo.1決定戦。球団セレクションを経て選ばれた小学5・6年生が参加。本大会からスポーツの価値を伝えていくため「夢 DREAM」「成長・進歩 PRGRESS」「生き生きと輝く姿 WELL-BEIN」の理念を掲げ、新しいルールの導入や「障害予防検診」「障害予防ミーティング」「フェアプレイ会議」などを併せて実施

日程：2023年12月26日～28日

会場：明治神宮野球場・横浜スタジアム

期間中観客動員：計14,971人

- NPB ガールズトーナメント 2024 全日本女子学童軟式野球大会の開催

都道府県代表の小学生女子チームが参加し、トーナメント方式による全国大会を開催。試合後の「アフターマッチファンクション」によるスポーツマンシップの醸成や「肩肘検診」などを併せて実施。年々参加チームが増加し、女子選手の目標大会として定着したことで女子野球全体の競技人口拡大に寄与

日程：2024年7月27日～8月1日

会場：石川県内7会場（金沢市民野球場、白山市立野球場、野々市市民野球場、志賀町野球場、金沢市内川少年野球場 A、金沢市内川少年野球場 B、金沢市戸室少年野球場）

- ベースボール型授業研究会の開催

小学校体育における「ベースボール型授業」の基本動作や簡易ゲームの紹介、進め方など授業の実施方法を紹介し体育授業をより充実していただくための教員向けの講習会を開催(計1,916名の教員が参加)

- ✓ 「エデュすぽ！～教員のための体育授業研究会～」の開催  
 知名度向上を狙い「エデュすぽ！～教員のための体育授業研究会～」に名称を変更して2024年に5大ドームで実施。8月以降は、アンケート調査の要望に応え1度に「ベースボール型」と「ゴール型」を学べる機会創出のため、公益財団法人日本サッカー協会の協力を得て合同開催(計1,338名の教員が参加)
    - ・2024年6月15日 みずほ PayPay ドーム福岡 168名参加
    - ・2024年8月9日 バンテリンドームナゴヤ 393名参加
    - ・2024年8月19日 京セラドーム大阪 407名参加
    - ・2024年9月14日 東京ドーム 370名参加
 ※2024年10月13日に大和ハウス プレミストドーム(札幌)にて開催
  - ✓ オンライン ベースボール型授業研究会  
 オンラインで「ベースボール型授業研究会」を実施(全国各地から計355名の教員が参加)
    - ・2024年6月23日 一部：はじめてのベースボール型授業(女性優先)61名  
 二部：ベースボール型授業の校内研修の実施方法について89名
    - ・2024年7月6日 一部：やさしいベースボール型授業108名  
 二部：ベースボール型授業研究会参加経験者による報告・意見交換51名
    - ・2024年9月29日 一部：はじめてのベースボール型授業  
 二部：ベースボール型授業の校内研修の実施方法について46名
  - ✓ 教育機関開催の「ベースボール型授業研究会」への講師派遣  
 全国市区町村教育機関が実施する研究会へ講師を派遣(計223名の教員が参加)
    - ・2023年10月4日 茨城県教育委員会 つくばみらい市伊奈東小学校 30名
    - ・2023年11月7日 大阪府茨木市体育部会 茨木市中条小学校 80名
    - ・2024年1月26日 京都府教育委員会 島津アリーナ京都 19名
    - ・2024年8月26日 三重県教育委員会 津市一志東小学校 47名
    - ・2024年8月27日 三重県教育委員会 玉城町田丸小学校 47名
  - ✓ ベースボール型授業実施 全国小学校調査の展開  
 2023年春に実施した全国小学校への実態調査の集計・分析作業を実施。全国小学校における「ベースボール型授業」実施率が約75%と判明。中期経営計画におけるパイロット事業の指標としてデータを活用し今後更なる実施率向上を目指す
- ◇ 中学生向け施策
- 中学生部活動地域移行における環境整備支援の検討  
 少子化や学校教員の働き方改革に対応するために進められている中学校部活動地域移行によって懸念される中学生年代の野球競技者減少への対応としてどのような施策が必要かの検討を実施
    - ✓ 自治体や事業者へヒアリングを実施し、自治体・競技団体主催の講習会などへの講師派遣や審判講習会開催の要望を受け、実施に向けての準備作業を開始
    - ✓ 日本野球協議会においても最重要検討事項であることを確認し、ワーキンググループ「中学球児応援プロジェクト」を立ち上げ、パイロット事業の検討を開始
- ◇ その他野球振興に関する取組み

- 初心者向け審判講習会の実施
  - ✓ 学童(小学生) 野球指導者や野球をやっている子どもの保護者、小中学生で野球をやっている選手等、あまり審判をやったことがない人を対象としたNPB 現役審判員による審判技術の講習会を2会場で実施。明るく、分かりやすい指導が参加者から好評を得ており、審判への興味をもつきっかけづくりや野球規則への理解度アップに貢献(計2回120名が参加)
    - ・2024年1月13日 やまぐち富士商ドーム(山口県) 43名参加
    - ・2024年1月21日 レクザムボールパーク丸亀(香川県) 77名参加
- 日本野球協会を通じたアマチュア野球団体との連携と相互協力
  - ✓ 野球競技者登録システム「野球ネット」の運用推進
  - ✓ プロアマ共同調査の実施(普及振興活動状況調査等)
    - 隔年行っている「普及振興活動状況調査」の4回目を実施(集計中)
  - ✓ 障害予防、野球動作と脳・神経系発達との関係に関する研究等
    - ・第1回障害予防研究結果をNPB公式サイトで公表
    - ・東大・中沢研究室と共同で脳・神経系発達に関する研究を実施中
- 現役プロ野球選手による高校野球現役部員への技術指導シンポジウム「夢の向こうに」を実施(計370名の高校野球部員が参加)
  - 日程：2023年12月14日
  - 場所：エスコンフィールド HOKKAIDO
- 学生野球資格回復研修会の実施
  - プロ野球出身者が学生野球を指導する際に必要となる資格の得失管理と研修会をeラーニング形式で実施しました。各事業を継続開催することによりプロ野球側と学生野球側の更なる相互理解や信頼関係構築に寄与
    - ✓ NPB プロ研修：2023年12月13日～19日
    - ✓ 学生野球研修：2024年1月2日～22日

### 【助成事業】

日本野球機構補助金規定に則り、野球または野球を含むスポーツ振興またはその援助を目的とする下記公益団体に対し寄付金、助成金の交付を行いました。

- ◇ 公益財団法人野球殿堂博物館
- ◇ 公益財団法人全国野球振興会(日本プロ野球OBクラブ)
- ◇ 公益財団法人日本野球連盟(JABA)
- ◇ 一般社団法人全日本女子野球連盟
- ◇ NPO 法人アオダモ資源育成の会

### 【国際的な取り組み】

- ◇ WBSC(世界国際野球ソフトボール連盟)賛助会員としての活動
- ◇ MLBを含めた海外プロ野球組織との関係強化ならびに折衝
- ◇ 侍ジャパン国際試合マッチメイク
  - 機構として初めてチェコ代表チームの招聘を実現

※バンテリンドーム名古屋で侍ジャパンとの対戦を予定(2024年11月9日～10日)

- ◇ 海外ウィンターリーグへの選手派遣  
NPB 球団への育成機会提供のため台湾ウィンターリーグへ選手を派遣
- ◇ 海外リーグへの若手・中堅審判員派遣  
シーズンオフ期間にも出場機会を確保することによる技術向上を目的としてオーストラリアン・ベースボール・リーグ(ABL)に若手・中堅審判員を派遣しました。派遣先である豪州審判員との交流により相互の技術力向上にも寄与

#### 【選手への取り組み】

- ◇ 新人選手選択会議(ドラフト会議)、育成ドラフト会議の実施(2023年10月26日)
- ◇ 現役ドラフト会議の実施
- ◇ 新人選手研修会開催(2024年1月12日)：新入団選手・審判員ら計125名が参加
- ◇ プロ野球合同トライアウトの開催・運営協力
  - ・ 2023年11月15日にファイターズ鎌ヶ谷スタジアムで開催、59名が参加
- ◇ セカンドキャリアサポート
  - ・ みやぎフェニックス・リーグ参加の現役選手へのセカンドキャリアに関する意識調査を実施
  - ・ 退団者の動向調査を実施
  - ・ 現役選手意識調査および退団者動向調査結果をとりまとめメディアリリース。機構公式ホームページ上での関連情報の公開
  - ・ セカンドキャリアサポートマガジン「NEW BALL2024」の編集および発行。2,800部発行し、現役選手及び公益社団法人全国野球振興会(プロ野球OBクラブ)会員へ配布
- ◇ 支配下10年以上選手養老補助制度及び弔慰金制度の管理・運営
- ◇ 退団選手一時金制度の管理・運営
- ◇ 監督・コーチ・選手の国民年金基金等への加入促進活動と加入手続きサポートを含む管理・運営
  - ・ 12球団と協力し、加入促進活動ならびに基金への申し込み取次ぎを実施
  - ・ 奨励金支給に関するオールスターゲーム資金の分配と球団請求業務を実施

#### 【その他の取り組み】

- ◇ プロ野球の試合をより魅力あるものにするための調査・研究の継続
- ◇ 野球協約・統一契約書の編集、発行
- ◇ 公認野球規則の編集、発行と配布
- ◇ 審判員技術向上のための取り組みの実施
- ◇ 機構審判員の人材確保を目的としたNPBアンパイアスクールを実施
  - ・ 2023年12月14日～12月20日までロッテ浦和球場で実施
  - ・ 修了生6名と研修審判員契約を締結

## == 収益事業等 ==

#### 【プロ野球公式戦開催とそれに伴う業務】

- ◇ 試合運営管理

- 2024 年度セントラル、パシフィック野球連盟選手権試合の日程編成
- 2024 年度イースタン、ウエスタン・リーグ年度選手権試合の日程編成
- 非公式試合の日程編成
- 上記試合の運営管理
  - ✓ NPB 契約審判員、記録員の派遣
- みやざきフェニックス・リーグの運営管理
  - ✓ 参加球団との調整、宮崎市との調整
  - ✓ 試合日程作成
  - ✓ 放送局との契約交渉、調整
- ◇ 選手に関する業務等
  - 登録、異動、FA 等の公示
  - 選手登録関連に使用するシステム「NPB ネット」と NPB 公式 HP とのデータ連携強化、実務負担軽減のために NPB ネット一部改修を実施
- ◇ NPB AWARDS 2023 開催(2023 年 11 月 28 日)および記録達成時等の表彰の実施
- ◇ 各種刊行物の作成・発行
  - 各リーグアグリーメント
  - 各リーグガイドブック
  - オフィシャルベースボールガイド
- ◇ 試合記録データの管理
  - 年度連盟選手権試合(公式戦)および非公式戦等への公式記録員の派遣
  - 公式記録の作成
  - 公式記録ベースボール・インフォメーション・システム(BIS)検索サービスの提供
  - メディアへの速報記録等の配信
  - 12 球団への各種データ提供、球場ビジョン表示用速報データの配信
  - NPB サイトへのデータ提供
  - 各種刊行物記載データ作成および制作協力
  - NPB 記録集サイト、ファーム記録集サイトを作成し運用開始
  - 「Dropbox」アプリを活用したデータ提供(試合前投打成績表)および補助スコア提供を開始

【試合の主催、開催、運営】

- ◇ ファーム日本選手権
  - 2023 年 10 月 7 日(土) 宮崎県 ひなたサンマリンスタージアム宮崎で開催
- ◇ 日本選手権シリーズ
  - 2023 年 10 月 28 日(土)から京セラドーム大阪、阪神甲子園球場にて開催
  - 株式会社三井住友銀行に特別協賛をいただき「SMBC 日本シリーズ 2023」として開催。株式会社三井住友銀行による特別協賛は 2014 年から 10 年連続。
- ◇ フレッシュオールスターゲーム
  - 2024 年 7 月 20 日(土) 姫路市立姫路球場にて開催  
姫路で初開催となった本大会には新規参加球団からの選手も出場し満員での開催
- ◇ オールスターゲーム運営業務受託(12 球団共催事業)

- 株式会社マイナビに特別協賛をいただき「マイナビオールスターゲーム 2024」として下記2試合を開催・運営
  - ✓ 第1戦：7月23日(火) エスコンフィールド HOKKAIDO
    - ※エスコンフィールド HOKKAIDO でのオールスターゲーム初開催
  - ✓ 第2戦：7月24日(水) 明治神宮野球場

#### 【試合以外の収益事業】

- ◇ 2024年6月1日付けで組織改編を実施、営業推進部を新設。各担当部署の事業スポンサー営業等をサポートし取りまとめ、より効果的・効率的な利益拡大を目指すために下記検討を開始しました。
  - NPB パートナー事業
    - ✓ スポンサー権益の整理と制度の見直しならびに新しいスキームの検討
  - セ・パ両リーグのリーグタイトルパートナー事業
  - 審判員ユニフォーム広告事業
  - 各種事業のパッケージ化によるテレビ放映権販売価格の見直しや OTT 等への新しい販売スキームの検討
    - ✓ スポーツ業界における OTT 現状について考察を行い、機構主催事業におけるテストマーケティングの実施を今後予定しています。(ファーム日本選手権：10月・ジュニアトーナメント:12月)
  - 上記をより効果的にするための PR 戦略構築の検討
    - ✓ 各部署が行う事業の価値最大化が図れるよう当該部署と連携しながら PR 戦略の検討を開始
- ◇ グッズの制作、販売管理
  - 機構が運営する大会のオリジナルグッズ製作・販売
  - NPB オフィシャルオンラインショップの運営・管理
- ◇ NPB マークの管理
  - 球団およびメーカーへの販売
- ◇ 機構が権利を有する商標等、選手肖像を含む 12 球団プロパティの使用許諾事業の管理
  - NPB エンタープライズ社のゲーム管理事業、e スポーツ事業に対する機構が権利を有する商標等の使用許諾
  - 選手肖像、12 球団プロパティ使用許諾管理
- ◇ 球団試合写真等の素材管理サービス NPB CIC の運営管理
  - 10 球団が写真素材の管理ならびに事業者への使用許諾業務に本システムを利用
- ◇ 機構管理試合の二次映像の使用許諾業務

#### 【国際大会に関する業務】

- ◇ 日本代表チーム(野球日本代表侍ジャパントップチーム)の編成・派遣支援
- ◇ アジアプロ野球チャンピオンシップ 2023 の開催運営支援
  - 本大会に参加した 3 か国の野球連盟との折衝、調整  
(オーストラリア野球連盟・中華職業棒球第聯盟・韓国野球委員会)



- 大会運営支援
- ◇ 侍ジャパンシリーズ 2024 日本代表 vs 欧州代表の開催運営支援
  - 欧州代表チームを編成統括した WBSC との折衝、調整
  - 大会運営支援

## == その他目的を達成するために必要な事業 ==

### 【広報活動】

- ◇ NPB 主催試合等の広報対応、取材・会見対応
  - 日本選手権シリーズ、オールスターゲーム、新人選手選択会議(ドラフト会議)等の広報対応を実施
  - 一次情報発信プラットフォームの拡大。ニュースサイトへの入稿を開始
- ◇ メディアへのプロ野球取材 ID の発行・管理
- ◇ 公式フォートの管理
  - 納品方法および保管方法の見直しを実施
    - ✓ ネットワークストレージサービス利用開始
- ◇ 公式ホームページ、SNS での情報発信
  - 公式ホームページ
    - ✓ 旧代的な一部ページのレイアウトをスマートフォン表示最適化への取り組みを開始
    - ✓ 野球振興関連の WEB コンテンツ整備を実施
  - 公式 YouTube  
運用開始から 2 年目となり発信力強化、新規ファン獲得のために下記施策を実施。これにより前年比でチャンネル登録者数 22%増加、年間視聴回数 84%増加、視聴回数における女性比率は 13.6%から 17.1%に増加
    - ✓ コンテンツの強化
      - 主催試合・主催イベント練習風景などのライブ配信、クリッピング、舞台裏映像配信
      - 試合中継：NPB12 球団ジュニアトーナメント、NPB ガールズトーナメント
    - ✓ 運用の外部委託による映像の高品質化、配信までの迅速化
- ◇ プロ野球 90 周年企画の実施  
1934 年に日本にプロ野球が誕生してから 90 年を迎えた 2024 年シーズンは「プロ野球 90 年シンボルマーク」の製作に加え、本企画を通して 90 年という長い歴史を共に築いてきたプロ野球とファンが触れ合い、さらに絆を深めるために様々な角度からファンコミュニケーションを展開
  - プロ野球 90 年 シンボルマーク  
シンボルマークを製作、2024 年シーズン試合で選手たちが着用するキャップにワッペンを付けてプレー。各種オリジナルグッズも販売
  - 各種プロモーション映像の製作・配信  
プロ野球 90 年のシーンを散りばめたプロモーション映像を製作し、公式戦開催球場ビジョンや NPB 公式 YouTube など配信
  - 特別企画「90 の質問に答えてみた！」の展開  
NPB 野球振興室公式 X を通じて野球にまつわる質問を募集し、12 球団選手、審判員、記録

員、球団マスコットキャラクターや球団スタッフなどから質問に対する回答を動画で公開

✓ 32 回答を X にて配信(延べ約 640 万回閲覧)

※残りは 2024 年シーズンいっぱいにかけて配信予定

- やきゅうたいそうだいいち(野球体操第一)～12 球団マスコットキャラクターVer.～公開  
これからの「プロ野球 100 年」に向け、次世代を担う子どもたちに身体を動かす楽しさを感じ、みんなで一緒に楽しんでもらうことで日常のコミュニケーションのきっかけにしてもらいたいと 2021 年に制作した未就学児向けダンス「やきゅうたいそうだいいち」の 12 球団マスコットキャラクターが躍る新バージョンを制作、NPB 公式オフィシャルサイト、NPB 公式 YouTube チャンネル、NPB 野球振興室公式 X など で発信。(延べ約 150 万回の閲覧)
- ✓ NPB 公式 YouTube チャンネル：延べ約 52 万回閲覧
- ✓ NPB 野球振興室公式 X：延べ約 95 万回閲覧

### 【検査・調査】

- ◇ 公式戦の適切な運用に資する研究・調査を実施
  - バット強度の研究・調査の実施
  - 統一球の反発係数調査の実施

### 【暴排活動】

- ◇ プロ野球暴力団等排除対策協議会の中央協議会開催
- ◇ 選手への講習会実施(新人研修会・春季キャンプ期間中・みやぎきフェニックス・リーグ)

### 【NPB 医事委員会活動】

- ◇ アンチ・ドーピングの啓発活動とドーピング検査の実施
- ◇ 脳震盪ガイドラインの周知

### 【組織強化】

- ◇ 営業推進部の新設
  - 機構内事業価値最大化のために事業本部を「事業運営部」と「営業推進部」に分割し、各担当部署の事業スポンサー営業等をサポートし取り纏めていくことでより効率的、効果的な利益拡大を目指しスポンサー権益整理等を開始
  - パブリックリレーション機能を設置  
スポンサーアクティベーション等に沿ったより効果的な宣伝活動の企画立案を行い、これまで以上にファン等全てのステークホルダーの社会的認知向上に影響を与える活動のための施策検討を開始
- ◇ 人員補充
  - ファームへの 2 球団新規参加による試合増に伴い、審判員、記録員を追加採用
- ◇ 12 球団、機構職員の業務支援
  - 各種議事録閲覧システムの構築(※2024 年 10 月サービス提供開始予定)
- ◇ 知的財産権等の出願管理および保全管理
- ◇ 各種制度・ルール遵守の徹底

- 情報セキュリティ研修実施
- コンプライアンス研修実施

◇ 内部監査の徹底

【その他の取り組み】

◇ ファームへ独立リーグ2球団が新たに参加

- オイシックス新潟アルビレックス BC、くふうはやてベンチャーズ静岡の2球団が新たに参加しファームリーグを開始
- 地域貢献や野球普及振興の全国への足掛かりとすべく、今後も12球団と共にサポートを継続

以上